

唐船海岸におけるぬかるみ発生原因**【唐船山西側】**

唐船山西側の排水路下流側に南北に延びる砂州が形成されて、唐船山西側に地盤高がやや低くなった場所が存在する。河川横断方向に張り出した排水路の上下流に流れの停滞域が形成されることで、唐船山西側は細粒土が堆積しやすい環境になっていると考えられる。

【唐船山東側～T 突堤西側】

表層砂が潮流や波浪で移動することで、下層の泥質土までの表層厚が変化し、ぬかるみ分布が変化する。

また、出水時に干潟テラスに堆積した細粒土が、潮流や小波浪によって輸送され、T 突堤岸側で沈降・堆積する。また、河川出水時にも、唐船山南側を東に向かう流れによって運ばれた細粒土が堆積する。堆積過程では、沿岸方向に形成されているバートラフのトラフ部に堆積し、ぬかるみが移動しにくい状態になると考えられる。なお、高波浪来襲時は、汀線付近の細粒土が沖側に輸送される。

【T 突堤周り】

波浪に対して遮蔽域を形成し、潮流に対しても滞留域となるので、輸送された細粒土が堆積しやすくなる。一方、T 突堤建設後の堆砂時に窪地地形が形成され、輸送された細粒土が局所的に堆積し、深いぬかるみが形成されたものと考えられる。

【T 突堤東側～東防砂堤】

T 突堤西側の海岸部よりも水深が深く、波浪の影響が相対的に大きいため、ぬかるみは点在し、分布面積も小さい。ぬかるみは、潮流、波浪、出水時の河川流によって輸送された細粒土が沈降堆積して発生すると考えられる。

対策方針

【唐船山西側】

ぬかるみ箇所を覆砂する。

【唐船山東側～T 突堤西側】

バートラフの形成によるぬかるみの固定化を解消するために、現存ぬかるみを浚渫し、その後覆砂することで地形を平坦化する。また、点在するぬかるみは個別に浚渫して、砂で埋め戻す。

【T 突堤周り】

深いぬかるみを浚渫後、砂で埋め戻す。

【唐船山東側～東防砂堤】

点在するぬかるみを浚渫し、砂で埋め戻す。

維持管理手法

【維持管理対象範囲】

唐船山西側から東防砂堤までの沿岸方向約 900m、岸沖方向は T 突堤先端までの約 230m を年 1 回の通常の定期監視範囲とする。また、唐船山東側～T 突堤西側の沿岸方向約 400m、T 突堤先端までの岸沖方向約 165m を詳細監視範囲とする。

【モニタリング期間】

5年間を基本とする。

【維持管理開始時期】

本対策実施後

【維持管理フロー】

3年間のモニタリング結果より、4年目以降のモニタリング内容、頻度、対策の必要性について中間評価する。5年目には最終評価を行い、6年目以降の維持管理方法(モニタリング内容等)について検討する。

【モニタリング内容】

モニタリングは地形変化及びぬかるみ分布状況を把握するために実施し、簡易調査を基本とする。簡易調査において、地形変化やぬかるみの発生が確認された場合は、詳細調査を実施するものとする。

(1)地形変化調査:

- 簡易調査: 定点写真撮影調査(1回/月)
- 詳細調査: 横断測量

(2)ぬかるみ分布定期観測:

- 簡易調査: 定点調査(3回/年)
- 詳細調査: 歩行調査

【モニタリング結果の評価の目安】

モニタリング結果より、対策実施判断の目安は以下のとおりとする。なお、明らかに海水浴場の安全面に問題ないと判断される場合は除く。

目安: 海水浴場: 「厚さ 5cm 以上」

唐船山西側及び T 突堤周り: 「厚さ 10cm 以上」

【対策の内容】

覆砂・敷均し等